

みなとまち新潟 歴史探訪 14

問 歴史文化課

☎025-226-2584



新潟駅周辺は中州だった！？～流作場今昔～

信濃川の下流に位置する新潟は、川の変化とともに町の様子も大きく変化してきました。新潟駅周辺の地域にも変化の歴史があります。現在の駅周辺は、古くは信濃川にできた中州で、作柄が不安定なことから「流作場^{りゅうさくば}」と呼ばれていました。

延享4(1747)年の絵図には、信濃川に浮かぶ中州が描かれています。赤い丸で示した場所が現在の新潟駅がある付近です。沼垂側の陸地と中州の間には「古信濃川」と呼ばれた川が流れ、昭和34(1959)年に埋め立てられるまで残っていました。

新潟駅の移転に合わせて土地区画整理事業が実施されたことで、昭和52年に「流作場」の名称は町名からは消え、今日では「流作場五差路」などに名称が残っています。周辺地域の都市化も進み、かつての中州は新潟の玄関口へと発展を遂げました。



延享4年「沼垂新潟増減立会絵図」
(新潟市歴史博物館蔵)



現在の流作場五差路
「流作場」の名称を残す数少ない場所となっている